

風毛と雨血

1

碧い空を突き抜けるものはない
果てしない草原

上昇する何かが
点のやうに見えてゐたが
飛び散つた

風に舞ふおびたしい 毛
血のしたたりが その中から

2

海は大きくゆれ動いてゐた
その上を次第に押しはじめるものがあつた

ある一点の 急変
重さうに 白い粒になつて
落下しはじめた 無数の 毛
追ひついて 染めて それらより
なほ すみやかに 血のしたたり

日光がキラキラと輝きはじめもしたが
さだかならぬしめり気ももどつて来た

3

白い岩石は斜めにそびえ
滝はとめどない音をひびかせてゐた

五月の山は 芽ぶく 樹の列

空気のなまぐささを感じたのは 君
空中に 毛が 舞ひ
花火のやうに 血が 散つて

それを 見て 君は

